

PERFECT MASTER

歯科国試パーフェクトマスター

# 小児歯科学

河上智美 編著

第3版



購入者特典



電子版アプリ (iOS, Android 版)  
利用権つき

歯科医師国家試験出題基準対応

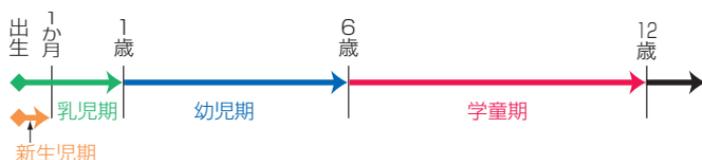
医歯薬出版株式会社

## 小児の全身発達

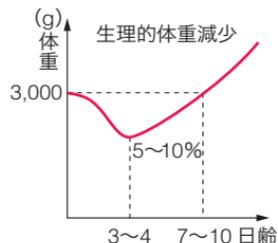
## Check Point

- ・1歳，1歳6か月，3歳，6歳での身体や精神の特徴を覚える。
- ・運動機能，言語，情動の発達の年齢変化を理解する。
- ・食育に関する哺乳・離乳・摂食の機能や役割について理解する。

## I. 発育期の分類



出生前期	細胞期：0～14日 胎芽期：14日～9週 胎児期：9週～出生
新生児期	周産期：胎生22週～生後6日  出生後4週間 出生時の平均身長：約50cm 平均体重：約3,000g，男児>女児 生理的体重減少：200～250g減少し7～10日 で出生時体重に復帰する。 原因：①出生直後は哺乳力が弱く水分補給が 不十分，②胎便や尿の排泄，③羊水の 嘔出，④皮膚や肺からの水分喪失（不 感蒸泄）など。
乳児期	満1歳まで
幼児期	1～6歳
学童期	6～12歳



## VII. 口腔機能の発達

出生から幼児期にかけては、咀嚼機能を獲得するための重要な時期。

### A 胎生期の口腔機能の発達

開口	胎生 10 週
口唇の動き	胎生 14 週
指を吸う	胎生 20 ～ 25 週
吸啜行動	胎生 24 週

### B 哺乳に関係する反射



初期の哺乳運動は反射によるもので、この反射は5～6か月頃に消失する。その後、食物による刺激経験を通して、咀嚼、嚥下運動を学習・獲得していく。

- ①**探索反射**（追いかけて反射）：頬や口唇を刺激すると、受けた方向に顔を向け、乳首を探索する。
- ②**口唇反射**（捕捉反射）：乳首を口唇と舌を使って捕捉しようとする。
- ③**吸啜反射**：口唇に乳首が入ると、吸啜運動を行う。
- ④**嚥下反射**：咽頭部に送り込まれた乳汁を飲み込み、食道に送る。（原始反射ではなく成長後も残る。）
- ⑤**舌挺出（舌突出）反射**：固形物を口に入れると、これを口の外に排除しようとする。



探索反射



口唇反射



吸啜反射

### C 吸啜

- ①乳児の吸啜：舌と顔面筋で下顎を前方に突出、固定し舌を前後に動かす。
- ②吸啜刺激によるホルモン分泌：乳児と母親両者に消化管ホルモン分泌を亢進させ、消化吸収が盛んになる。



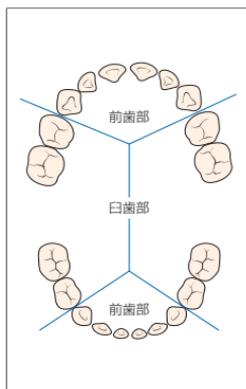
吸啜窩

## B 乳歯齲蝕の罹患型

### 1) 厚生労働省分類

#### 3歳児歯科健康診査による分類

齲蝕がない		齲蝕がある	
O型	A型	上顎前歯部のみ、または臼歯部のみ	
	B型	上顎前歯部および臼歯部	
	C型	下顎前歯部	C1型：下顎前歯部のみ C2型：下顎前歯部を含むほかの部位にも



乳歯齲蝕の罹患型

#### 1歳6か月児歯科健康診査による分類

齲蝕がない		齲蝕がある	
O型	O <sub>1</sub> 型：口腔環境が良好	A型	上顎前歯部のみ、または臼歯部のみ
	O <sub>2</sub> 型：口腔環境が不良	B型	上顎前歯部および臼歯部
		C型	臼歯部および上下顎前歯部



### CHECK!

- ・1歳6か月・3歳児歯科健康診査は母子保健法に基づき市町村が実施する。
- ・学校歯科健康診断は学校保健安全法に基づく（2009年4月1日施行）



### コラム③：産まれる前から診ています！

母子健康手帳には子どもだけでなくお母さんの妊娠中と産後の口腔内状態を記載するページもある。産前歯科健診では、診察日の妊娠週数、歯式のほか、齲蝕、歯石、歯周病の有無などを記入する。妊産婦は、つわりなどが治まり安定期に入った妊娠5～7か月の間の健診を産科から勧められ、処置が必要であれば出産前に済ませるようにアドバイスがある。お腹が大きくなった妊娠末期の歯科治療時には仰臥位低血圧症候群予防のために体位の配慮が必要である。

保護者の齲蝕活動性は子どもの齲蝕リスクに深いかわりがある。出産前の齲蝕予防教育で次世代の齲蝕減少をさらに加速できるのではないだろうか？



左側臥位（シムス体位：左側を下にする）

## Ⅱ. 齲蝕の予防

### 小児のブラークコントロール

#### 口腔清掃法

##### 口腔清掃の種類

	物理的方法	化学的方法	自然の自浄作用
プロフェッショナルケア	PMTC スクーリングなど	抗菌薬 酵素剤の投与など	栄養、食事指導など
ホームケア	ブラッシング フロッシング	洗口剤 薬用歯磨剤など	繊維性食品の摂取 など

#### ①ブラッシング

小児に適した刷掃法

- ・スクラッピング法
- ・フォーンズ法（描円法）

#### ②フロッシング

#### ③洗口法

（フッ化物洗口：洗口前の口腔清掃→洗口液の準備→洗口→洗口液の吐出）

#### 発達段階別にみたブラッシング

年齢に即したブラッシング法の要点

乳歯の萌出開始（生後8か月）とともにブラークコントロール開始

歯齢	年齢	指導対象	指導する主な部位	備考
ⅠC	0～1	保護者	乳前歯部	はじめはガーゼなどで前歯部を拭き徐々に歯ブラシにも慣れさせる
	1～2		上顎前歯部	寝かせ磨き、歯磨きが楽しいことをおしえる
ⅡA（前期）	2～3	保護者および小児	乳臼歯咬合面	寝かせ磨き、過剰な歯磨圧とストロークにならないように注意、小児にも歯ブラシを持たせる場合は転倒に注意
ⅡA（後期）	4～5		乳臼歯隣接面	小児がブラッシングを行い、保護者が仕上げ磨き隣接面にはフロスを使用
ⅡC	6～7	小児	第一大臼歯咬合面	第一大臼歯萌出完了までは保護者が点検磨きを行う
ⅢA	8～9		第一大臼歯隣接面 上顎前歯歯頸部 および隣接面	小児が自分でしっかり磨く習慣をつけていることが必要 隣接面および歯頸部の磨き方を意識させる
		側方歯群咬合面	歯肉に対するブラッシングも加えて指導する	
ⅢB	10～11	※保護者に内容説明	第二大臼歯咬合面 側方歯群隣接面	
ⅢC	12～13			
ⅣA	14～15		第二大臼歯咬合面 大臼歯部隣接面	



**CHECK!**

Ⅱ A 期  
本人による口腔清掃の習慣化の開始時期

## B 臨床診断基準

診査事項	主訴	歯髓腔	齶蝕の深さ	軟化象牙質の湿潤性	周囲歯肉状態	打診		温度診		根周囲透過像	電気診				
						垂直	水平	冷温	熱温						
慢性単純性歯髓炎	なし	閉鎖性	象牙質	乾・湿	正常	-	-	-	-	-					
急性単純性歯髓炎	疼痛							- (+)							
急性化膿性歯髓炎	疼痛 (+腫脹)	閉鎖性 (開放性)	象牙質 (歯髓)	湿潤	炎症 (正常)	+	(-)	-	-	-	+				
慢性潰瘍性歯髓炎	咀嚼痛	開放性	歯髓					正常	+	(-)		+	-	-	
慢性増殖性歯髓炎	咀嚼障害											-	-	-	+
歯髓壊疽	疼痛											+	+	-	+

(長坂, 1968, 改変)

注1: カッコ内は主症状以外で高率の所見を示し, 中黒(・)はほぼ同率の所見を示す。  
 注2: 打診, 温度診は永久歯に比較し明確でなく, 臨床的な自・他覚症状が不明確である乳歯歯髓疾患の特徴を示している。



### CHECK! インピーダンス値

電気抵抗測定器による値で露髄の有無を知る。

閉鎖性 (健康象牙質の存在):  $18.0 \pm 2.0k \Omega$  以上

仮性露髄:  $16.0 \pm 2.0k \Omega$

露髄:  $12.0 \pm 1.5k \Omega$  以下

## C 処置法

### 1) 歯髓鎮静療法

**適応症** 歯髓充血, 急性単純性歯髓炎

## IV. 舌の病変

### A Riga-Fede 病 よくでる



先天(性)歯↑による舌下面の潰瘍

**原因** 先天(性)歯 (新生歯, p.25 参照) または萌出中の下顎乳中切歯切縁の刺激

**症状** 舌下面の潰瘍

**対応**

- ・原因歯の鋭利な切縁の削除.
- ・グラスアイオノマーセメントによる被覆.
- ・改善しなければ原因歯の抜去.

### B 溝状舌



舌背に多数の亀裂 (溝)

**原因** 先天異常, 精神神経疾患, てんかん, クレチン病, Down 症候群, Crouzon 症候群など.

**症状** 自覚症状はほとんどなく味覚障害もない.

**対応**

- ・処置を特に必要としない.
- ・亀裂が深くなると不潔となり, 炎症を惹起することがある.
- ・炎症時には含嗽や舌のケアを行う.

### C 黒毛(状)舌

**原因** 抗菌薬やステロイド薬の服用, 菌交代現象による口腔内細菌叢の変化.

**症状**

- ・舌背の糸状乳頭が角化, 肥厚し, 細かい毛の生えたような外観を呈する.
- ・外因性色素沈着の一種.

**対応**

- ・自覚症状はなく, 薬剤の使用中止で通常数週間で治癒.
- ・含嗽剤の使用も有効.